

## Unit 20 Holistic approach/ Case illustration

Yusuke Takeuchi, Japan

The University of Tokyo

「ホリスティック・アプローチ」というセッション名がついているように、このセッションで発表された論文は、対象とする領域が多岐に渡る。デザイン（意匠系）の領域から、マネジメント（プロマネ系）の領域、コンストラクション（いわゆる建設系）の領域、あるいは教育の領域まで。ただ一点、全ての論文に共通している点があるとするならば、それは「持続可能な建築」、ひいては「持続可能な社会」の実現に向けて、「我々ができることは何か」またそれを「どうやって実現するか」ということを考えている点だと思う。まさしく、ホリスティックなアプローチである。（当然、このような趣旨のもと集められた論文達であることは百も承知だが。）

ところで、「ホリスティック」とはどういう意味だろうか。

辞書をひいてみると、「ホリスティック：【形】全体（論）的な、総体的な」という意味がでてくる。試しに google で検索してみると、「ホリスティック（医学）」とは、「人間を身体、心、気、霊性等の有機的統合体としてとらえ社会、自然、宇宙との調和に基づく包括的、全体的な健康感をもつてのぞむということである」（検索キーワード：ホリスティック）というように、どうやら医学、健康、精神、教育の分野で使われる用語のようである。

「生命」と密接に係わる分野が多いようで、その対極にある非生命的な「建築」に、「ホリスティック」という言葉を用いることに若干の違和感を覚える。

SB05 が、扱うテーマとして「建築」だけにしか焦点をあてていなかったならば、きっと「ホリスティック・アプローチ」なるセッション名はつかなかったように思う。「環境」に焦点をあてている SB05 だからこそ、本来なら無機物でしかない建築（従って議論される内容も人工的）に、有機体としての建築のあり方がたちあられ（人間を超越する部分）、半ば神がかっている「ホリスティック」というキーワードが用いられたのではないかと思う。このような印象の背景には、「環境はヒトに管理しきれぬのか？」という問題意識がある。

それはさておき、全体のレビューから。第一印象は、どの発表もこのセッションに属する必要がないように見え、またそれと同時に、やはりここに属している必要があるように見えた。そもそも「環境」や「持続可能性」というテーマ自体、扱う領域が広いから当然のことだと思う。従って、普通ならば、抽象的で摸としたつかみ所のない話が、頭をどんどん通過していっただけだと思っていた。しかしながらこのセッションでは、具体的な例を伴った発表が多く、ただでさえ英語リテラシーが低く発表を聞くのが困難な筆者にとって、これらを理解する上で大きな救いとなった。

いくつか簡単にレビューしておく。

マネジメント系の発表（ノルウェー）の主題は、「持続可能な建築プロジェクトは如何に行うべきか？」ということであったように思う。インセンティブの働かせ方、あるいは市場原理とサステナブル・プロジェクトの擦り合わせ、政府と民間のパートナーシップについて。これらについては日本でもよく考えられている。

ただ一点、日本と異なるところは、彼等の国の方が、環境に対する国民一人当たりの問

題意識が圧倒的に高いということではないかと思う。(当然、この他にも、国民一人当たりの所得が高いとか、福祉が充実しているなど色々あるが。) したがって、政府や民間や専門知識を持った人たちが、少し背中を押すだけで、つまり、ちょっとした提案をするだけで、あっという間に社会に環境配慮が浸透するように思う。事実、自分たちの研究によれば、特にエネルギー効率の改善やコスト削減という点において、建設産業の未来はやり方によって明るいものだというような主張であったような気がする。(やや拡大解釈しているかもしれないが。)

デザイン系の発表(スペイン)の主題は、「建築のエンベロップ(特にファサード)を設計するとき、緑(植物)を用いるには、どのような方法で設計を進めたら、美学的にも環境的にも最適か?」ということであったように思う。

本質的な内容に関する感想ではないけれども、結構CGによる表現が多く、デジタル表現主義?みたいなことを感じ、なんだか発表していることと、それを示す表現の乖離の方が気になってしまった。

内容については、総じて比較的あり得る話だったが、少し驚いたのが、彼らが提案する植物を提案したファサードの設計手法によると、夏は58%、冬には23%も省エネ効果があるとういことだ。効率だけに注目しているからだろうが、それならば、省エネ効果の絶対値を日本と比較してみたいという関心を抱いた。あるいは、日本と相対化して考えるから筆者が格別驚いているのか、そうではなくて、そもそもスペインではあらゆる環境の違いがあるから、その程度の省エネは当たり前なのか。

つくづく、世界各国と日本の違いに驚かされた。